



トリノ大学 農林・食品科学部



Università di Torino Department of
Agricultural, Forest and Food Science

●学部学生 約76,700人 ●大学院生 約2,700人 ●教職員 約3,800人

ホームページ <https://www.unito.it/>

交流協定締結年月日：2019年7月8日 主管学部：農学部



農林食品科学部の入口



鶏舎



パーティ準備の様子

国際交流の特色

トリノ大学は、イタリア北西部のピエモンテ州トリノにある国立大学です。1404年にローマ教皇ベネディクト13世の勅令により創設された、イタリアで最も歴史の古い大学の一つで、ノーベル賞受賞者を複数輩出した、格式高い名門大学の一つでもあります。現在は27の学部と55の学科で構成されています。25の大学とのダブルディグリープログラムを締結し、124カ国600以上の大学との国際交流協定を締結しています。トリノ大学は積極的に国際化を進めており、約4,400人(2017年-2018年)の留学生を受け入れています。2019年度には香川大学からトリノ大学へ学生1名を研究留学で派遣しています。

教員からの声

トリノ大学農林・食品科学部の研究者とは、2016年から研究の情報交換や日伊国際共同研究費への申請など交流を続けています。2019年には、香川大学農学部とトリノ大学農林・食品科学部との学部間学術交流協定を締結し、2019年10月より学生1名をトリノ大学へ派遣しています。学生の派遣先であるトリノ大学農林・食品科学部内の研究施設では、ニワトリや昆虫に加え、ウサギ、養殖魚など多種多様な動物が飼育されており、様々な動物の栄養生理について研究を行うことが可能です。この他、農林・食品科学部では生物生産科学や森林・環境科学、食品科学について学ぶことが可能です。またユニークな取り組みとして、国際連合食糧農業機関(FAO)と連携し、山岳地域の持続可能な管理に関する研究と教育プログラムを実施しています。

香川大学農学部 准教授 川崎 淨教

学生からの声

私は、2019年10月から約6ヶ月、トリノ大学農林・食品科学部の研究所で、昆虫飼料について研究に励みました。もともと香川大学でも昆虫飼料が鶏に与える影響について調べており、さらに深く学びたいと思いトリノ大学への留学を決めました。トリノ大学では、昆虫の生産と昆虫飼料が家畜に与える影響の2つの視点で研究されています。研究施設はかなり充実しており、様々な昆虫や家畜を対象とした研究が日々行われています。また、現地の方々には気さくに接していただき、多くのホームパーティーやディナーに誘っていただきました。さらに研究所には台所があるのですが、昼食の際にトリノの名物であるCarne cruda(牛の生肉)やRavioli(生地にひき肉などが挟んである pasta)、他にも様々なイタリア料理も振る舞っていただきました。皆様の支えもあり、トリノ大学では充実した留学生活を送ることができました。

香川大学大学院 農学研究科1年(留学時) 大川 真実